

およぐひと

長谷川 集平 作 解放出版社 (エルくらぶ)

【内容紹介】私がそこで出会った人々は「流れに逆らい家に帰ろうと泳ぐ人、遠くに行こうとする人」まだ4年、もう4年・・・「3. 11」をテーマにした絵本です。

下諏訪町立図書館 平出 みちよ



「自分」の壁

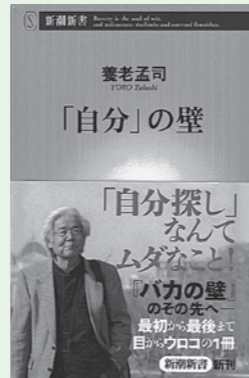
養老 孟司著 新潮社

【内容紹介】自分とはなにか？自分らしさとは？誰もが一度はそんなことを考えたことがあるはず。しかし、自分探しをするより大事なことがあるのではないかと？

本書では自分を取り巻く環境から自分は関係ないと避けてしまいがちな問題まで様々な角度から「自分」というものを考えています。また、現代でも参勤交代をしたほうが良いといった筆者独自の考えも書かれており、今の政治や様々な時事問題を新しい見方で見る事ができると思います。

この本を読み終わったとき、自分に対する考え方、そして世界の見方が変化しているかもしれません。

下諏訪町立図書館 芦澤 香奈



【お願い】「図書館利用カード」の住所・電話番号・メールアドレスなどに変更があった場合は、ただちに図書館へご連絡ください。

LINE

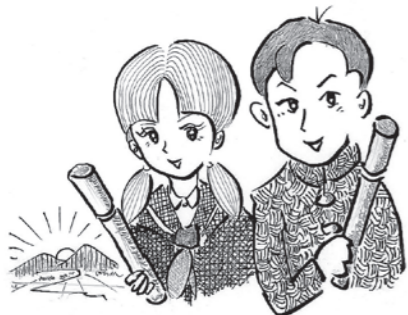
「ハ 蛍の光、窓の雪…」平成二十六年度末を迎え、学校や職場等のスピーカーから感謝とお別れのメロデーが流れてきそうな時節となりました。

「逢うは別れの始まり」という諺がありますが、単に家族や同僚・友人関係等における無常のたとえではなく、出逢いから別れまで喜怒哀楽を共にしながら、将来のお互いの発展に向け一緒に過ごしたひとときの思い出を、今後の生き方に繋げる言葉と受け止めたいです。

更に、茶道の心得で「一期一会」という諺があります。あなたと出逢っているこの時間は、一生に一度の機会。この一瞬を大切に思い、今できる最高のおもてなしをしましょう」という意味だそうです。私も、お世話になっっている方々に対し、この気持ちに近づきたいと思います。

もうすぐ四月。新しい出逢いの始まりです。すてきな笑顔あふれる日々の生活を基に、一人ひとりが有終の美を目指し、確かな一歩を踏み出しましょう。

(松崎 泉)



一年間のまとめ

PTA活動を通じて



町PTA連合会会長 吉澤 孝一

本年度四月より、下諏訪南小学校PTA会長、下諏訪町PTA連合会会長を務めさせていただきました。その中で、様々な講習会、研修会に参加する機会をいただきました。一部ではありますが、ご紹介します。(カッコ内は私の感想)

●下諏訪町PTA連合会 子育て講演会
「心に栄養届いていますか」
「生きぬくための食生活」
〈元岡谷工業高校バレー部 寮母 壬生智子氏〉
疲れていても、環境が変わっても、一日三食プラス補食を毎日継続することが大切。

(「やる気がでない」など気持ちや心の問題も、正しい食事と生活でまず体を整えることが大切と感じました。)

●関東ブロックPTA研究大会
「母親だからできること」
〈花まる学習会・代表 高濱正伸氏〉
・時間軸を意識する。
低学年まで・・・できなくて当たり前、男子のツノを折らない高学年から・・・同性の親と家庭外の師匠が大切
・私たちは経験を与えるために学校に出している。
「もめごととはこやし」、「失敗はこやし」の心構え
（最近「成功体験」を積み上げることにこだわり、私たち保護者が手を出しすぎているのかもしれない。)



●南小学校PTA講習会
「大人も子供もみんな笑顔に」
〈中信教育事務所指導主事 大野幸児先生〉
いじめの根っこにあるもの、それは自尊感情です。自尊感情を育てるには、心を傾けて聴くことです。
(「心を傾けて聴く」わかっていてもなかなかできないことです。)

●諏訪地区教研集会
「人権教育」
「言葉づかいは、心づかい」
こんな時、どう言いますか？
・友達にゲーム機を貸しました。一週間後、ゲーム機を返してもらうと、少し壊れているのに気がつきました。
・行きたくないのに遊びに行こうと誘われました。
・下校途中、一緒に歩いていたら友達、自動販売機の前で立ち止まり、お金を出しました。
(同じような状況は、大人にもよくありませんか？このような日常の経験を繰り返していくことで、生きるために必要な力をつけていくのだと改めて感じました。)

今回、学校との関わりを持つ機会を多く得たことで、先生、保護者の皆様を含め、多くの地域の皆様から沢山の支援を受け、子供たちは様々な経験をし、見守られながら成長していることを感じました。改めて感謝いたします。